

2024年6月20日

課題名： 頸動脈内膜剥離術で得られた病理標本に基づく頸動脈狭窄症の病態解明

◆研究の目的と概要◆

倉敷中央病院および京都大学大学院では、頸動脈狭窄症の病態解明に関する研究を行っています。本研究では、頸動脈内膜剥離術（CEA）で得られた病理標本を詳細に解析し、動脈硬化の進展メカニズム、病変部位の細胞・組織レベルでの特徴、プラークの破綻や治癒過程を明らかにすることを目指しています。これにより、頸動脈狭窄症の診断・治療の質を向上させ、今後のよりよい診療を行うことを目的としています。

◆対象となる患者さん◆

2005年1月から2024年3月までに当院で頸動脈内膜剥離術が行われた患者さん。

◆研究に使用される情報・試料◆

頸動脈内膜剥離術で得られた病理標本、診療録（カルテ）からの年齢、性別、既往歴、画像所見などの情報。病理標本からは「研究方法」に記載の項目を使用します。

◆情報の研究利用開始日◆

2024年7月16日以降

◆研究方法◆

本研究は過去の診療録（カルテ）等からの情報を利用し、以下の解析を行います。

- 病理標本の収集および染色（HE染色、マッソントリクローム染色、エラスティカファンギゾン染色等）
- プラーク構成組織の診断（粥腫、プラーク内出血、石灰化、線維性被膜）
- 炎症所見の観察（炎症細胞の浸潤、マクロファージの存在）
- 破綻した線維性被膜の観察（破綻部位の同定、破綻の程度の評価）
- 修復過程の観察（新生血管の形成、線維化の進行）
- 臨床所見および画像所見との比較（患者背景、症状、血圧、一般生化学検査、頸動脈MRI、CTA、頸動脈エコー）

* 研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる情報は

利用しません。

- * 本研究に関するお問い合わせや、カルテ情報の利用についてご了承いただけない場合、以下の問い合わせ先までメールでご連絡ください。ただし、解析中または、既に学会等で発表されたデータについては、削除できないことがありますことをご了承ください。

【問い合わせ先】

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院

脳神経外科・脳卒中科 研究責任者 黒崎 義隆

E-mail : kenkyu★kchnet.or.jp（臨床研究センター）

（★を@に変換して使用してください）

この研究課題で利用する残余検体・診療情報等の利用については、医の倫理委員会によって当該既存試料を用いなければ研究の実施が困難である等の理由が認められ、実施についての承認が得られています。

※【問い合わせ先】では、次の事項について受け付けています。

- 研究計画書および研究の方法に関する資料の閲覧（又は入手）ならびにその方法（他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。）
- 研究対象者の個人情報についての開示およびその手続
- 研究対象者の個人情報についての利用目的の通知
- 研究対象者の個人情報の開示、訂正等、利用停止等について、請求に応じられない場合にはその理由の説明